

琵琶湖部会における今後の検討課題に関するまとめ（案）

<議論の枠組みイメージ>

1. まず、理念・哲学・理想像・スタンスといった「基本的な考え方」を”従来”のものから、どう転換していくべきか
2. 上記の「基本的な考え方」のもとで、治水・利水・環境などの面で「具体的な方向」として、どんなことが考えられるか
3. さらに、”[琵琶湖および]各河川でのあり方”や、”堤防整備の方法”[・”沿岸環境の保全方法”]など、個別・具体の対応策として何が考えられるか

（以上は[一]以外、淀川部会から完全転用）

従来

転換後

基本的な
考え方

「人間の利害の視点」からの河川
整備

「河川の視点」および「人間の利害の視点を
同等に位置づけた河川整備

河川の視点：水・土・生物（人間を含む）等
によって構成される複合体としての河川系
（生態系）という視点

河川を拘束・制御する
硬直的目標設定型計画

河川に生かされる
順応的フィードバック式計画

（以上は近畿地方整備局の文書による）

経済的人間が中心
洪水期・渇水期を中心対象とした
計画
「寄りしむべし、知らしむべからず」
とでもいうべき行政中心の整備設定
短期的・「利他的」な目標設定

総合的人間の視点を含めた河川そのものが中心
平常時を含めた計画

住民が知恵を出し、それを行政が押し進めるか
たちの整備設定
自然の歴史を考えた真に長期的な目標設定
現状から考えるだけではなく、理想的にはどの
ようにあるべきかを考えたうえで、その方向
に向かって進める

（以上は淀川部会のものを基盤に新たに作成）

具体的な
方向

- 「治水」「利水」「環境」の分類・順序の見直し
- 縦断的（山～川～海）不連続の修復
- 横断的（河川区域外～河川敷～水域）不連続の修復
- 河川水質の修復
- 排水路・用水路・人工的利用空間土木構造的整備の是正
- 繰り返す破堤の輪廻からの脱却

流量・水位変動管理の弾力化

水利用の見直し

○基本的な考えのもとで優先順位の明確化

フォローアップシステムの確立

(以上は近畿地方整備局の文書による)

水はとにかく早く海に流し、一方で

ダムで水を貯める計画

洪水は河川の中だけで防ぎ、それを超えたときは「天災」とあきらめる計画

使いたいだけ使えるような利水計画

<治水><利水>に影響の無い限りにおいて、環境を考えてみてもよい

水量の変化する自然な流れを治水の基本とする計画

洪水時には、水が河川外にあふれる状況をもある程度考慮しながら、流域の土地利用全体で対応する計画

「もったいない」との考え方のもとで、「ライフスタイル」を変えたうえでの利水計画

環境保全を中心に「生態系のアプローチ」

(いくつかの国連会議における用法による)

を中心とする

(以上は淀川部会のものを基盤に新たに作成)

個別項目、 省略
対応策

省略

<検討項目（総論）>

1. 琵琶湖淀川水系の目標・理念

1-1. 長期的な展望

地球の長い歴史の中における琵琶湖淀川水系の特異性・重要性の位置づけ (淀川部会を参考に川那部)

例えば100年といった長期的な展望の必要性 (『河川法』の定義による「河川管理者」。以下「河川管理者」とのみ書く)

今後の人口減少を踏まえ、あるいはそれをむしろ促進する状態でのあり方 (淀川部会を参考に川那部)

1-2. 川と人との関係

河川とは何で、どう考え、いかなる望みを組み上げ、それを作り上げるのか。さらには「川は本来どうあるべきなのか (三田村)

「治水」「利水」「環境」のくくり、さらに河川系(生態系)の位置づけ (「河川管理者」)

「遊び」「育ち」「文化」の場としての琵琶湖と河川 (村上・「河川管理者」)

2. 社会・流域全体の視点

2-1. 地球環境

「温暖化」など地球環境変化の影響 (淀川部会を参考に川那部)

2-2. 社会環境

法体系の整備等の問題 (淀川部会を参考に川那部)

2-3. ライフスタイル

21世紀のライフスタイルとはいかなるものか (淀川部会を参考に川那部)

2-4. 河川に対する意識

河川に関する一般的認識・関心とその教育 (村上・「河川管理者」)

2-5. 流域管理

- 山から海までのみならず、太平洋への「垂れ流し」を含めた全域問題（淀川部会を参考に川那部）
- 流域の土地利用問題（淀川部会を参考に川那部）
- 上流・下流の連携（「河川管理者」）

2-6. 水環境・物質循環

- 正常な水循環のありかた（淀川部会を参考に川那部）

3. 整備・計画の視点

3-1. 整備・計画のあり方

- 琵琶湖と下流との関係（環境経済学的観点を含めて）（三田村・村上）
- 過去の計画の反省の明示の必要性和、これからの対策（ハード・ソフト）の明示の程度、さらには計画改定や「順応的計画・管理方法」の問題（「河川管理者」、淀川部会を参考に川那部）
- 直轄河川外との関係、他省庁・地方自治体との関係（「河川管理者」、淀川部会を参考に川那部）

3-2. 事業のあり方

- コストと効果の考え方（淀川部会を参考に川那部）

3-3. 管理のあり方

- 「順応的管理方法」の問題（前出）
- 住民参加などによる管理（「河川管理者」）
- 琵琶湖の水位操作（西野・「河川管理者」）

3-4. 連携・パートナーシップ

- 他省庁・地方自治体との関係（前出）
- 住民参画の基本的なあり方（淀川部会を参考に川那部）

3-5. 情報共有・発信

- 情報公開・情報提供のあり方（「河川管理者」、淀川部会を参考に川那部）

4. 治水・利水・環境（境界・融合領域）

- 生態系の維持を前提とした河川開発の適正規模（三田村）
- ダムの必要性和琵琶湖への影響（川端・寺川・西野・村上）
- 河川・湖岸改修の琵琶湖への影響（西野、淀川部会を参考に川那部）
- 落差工・洗堰等による魚類等の移動障害（「河川管理者」）
- 総合的に考えた適切な湖面利用のあり方（「河川管理者」）
- 今後の琵琶湖と河川における漁業等のあり方（淀川部会を参考に川那部）
- 「多自然型川作り」を「近自然的」なものに（淀川部会を参考に川那部）

<検討項目（各論）>

5. 治水

5-1. 方向性・考え方

- 水害とは何か、その許容範囲、さらには洪水の役割の評価（淀川部会を参考に川那部）
- 「洪水のある程度の溢流」を認めた今後の方向のもとにおける、一般住民の「危機意識」の低下を含めた防災問題（「河川管理者」、淀川部会を参考に川那部）
- 気候変動などとの関係（「河川管理者」）

5-2. 洪水

- 破堤・溢水・氾濫・ダム下流域の冠水、などの問題（「河川管理者」）
- 土砂減少・瀬切れ・湖岸侵食、などの問題（「河川管理者」、淀川部会を参考に川那部）
- 森林・農地などの保水機能と、土地利用方法の変革（「河川管理者」）

5-3. 高潮

なし

5-4. 地震・津波

洗堰の地震対策（「河川管理者」）

5-5. ソフト面での防災

水防方法伝承・災害減少対策策定・緊急対応、などの問題（「河川管理者」、淀川部会を参考に川那部）

6. 利用

6-1. 方向性・考え方

水域・高水敷の利用のあり方（「河川管理者」）

水需要あるいは「安定的供給」とは何か（村上・「河川管理者」）

水質を向上させるための琵琶湖・河川の生態系のあり方（川端、淀川部会を参考に川那部）

6-2. 湖面・河川空間利用（水域・高水敷）

漁業の「振興」について（倉田・「河川管理者」）

舟運問題（「河川管理者」）

不法行為・不法占拠、などの問題（「河川管理者」）

総合的に考えた適切な湖面利用のあり方（前出）

6-3. 水利用

農業形態の変化と水質の関係（「河川管理者」）

味覚や景観をも含めた水質のあり方（「河川管理者」、淀川部会を参考に川那部）

7. 環境

7-1. 方向性・考え方

環境目標度設定への試み（淀川部会を参考に川那部）

水質を向上させるための琵琶湖・河川の生態系のあり方（前出）

縦断・横断方向の連続性、開放系性、自由な流れ、などの回復（「河川管理者」）

生態系（既成の科学的概念に近い意味での）と景観の変化の問題（「河川管理者」）

水質向上のための住民のマナーの問題（「河川管理者」）

琵琶湖や河川を一般市民が近しいものとして理解するための方策（「河川管理者」、淀川部会を参考に川那部）

7-2. 生物・生態系

固有種・外来魚・病気などの問題（寺川）

7-3. 水量・水質

生態学的水需要の決め方の問題（村上）

微量有害物質をも視野に入れた水質基準と管理（淀川部会を参考に川那部）

ダム等を含む上流部水質悪化問題（「河川管理者」）

水質を向上させるための琵琶湖・河川の生態系のあり方（前出）

水質汚濁や水位変動が水質や生態系・景観、さらには文化に与える影響（「河川管理者」、淀川部会を参考に川那部）

7-4. 河川形状

土砂減少・瀬切れ・湖岸侵食、などの問題（前出）

8. 住民の意見聴取・反映方法

住民のとらえ方（村上・「河川管理者」）

住民の意見聴取・参画・反映などの具体的方法の問題（寺川・村上、淀川部会を参考に川那部）

9. その他

丹生川ダムの問題（村上）